



かがんだんきゅう
河岸段丘は、どのようにしてできるの

とち へんか かわ みず
土地の変化と、川の水のけずるはたらきでできる

かわ みずのはたらきには、かわぎし かわぞこをけずりとったりする、はたらき（しん しょく さよう）があります。

かわ じょうりゅう さんちがもち上がったたりして、とち へんかがあるとかわぞこのかたむきが、きゅうになることがあります。

そのときに、かわ かわぞこは川底のかたむきを、ゆるやかにするにはたらきます。かわぞこのかたむきをゆるやかにするために、かわぞこをけずるはたらきが、さかんになります。

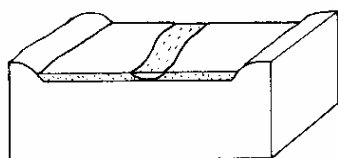
すると、かわはばがせまくなって、ふか たにができるので、かわぎし なが だん だん かがんだんきゅうとします。このような段を、河岸段丘といいます。

つぎつぎ かがんだんきゅう
次々に河岸段丘ができる

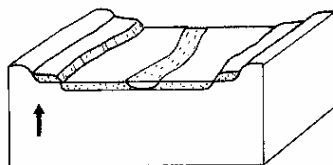
いちど かがんだんきゅうができて、また、さんちがもち上がったたりすると、かわぞこのかたむきがきゅうになり、かわぞこをけずるはたらきが、さかんになってきます。このようにして、つぎつぎ かがんだんきゅうができます。

とち へんか おお ところ なが かわ おおむかし かわ なんだん かがんだんきゅう
 土地の変化が多い所を流れる川や、大昔からある川などには、何段にもなった河岸段丘が見られます。やまなしけん さがみがわ ちゅうりゅう くんまけん かたしながわ てんりゅうがわ きそがわ
 山梨県の相模川の中流、群馬県の片品川、天竜川や木曽川などで見られます。

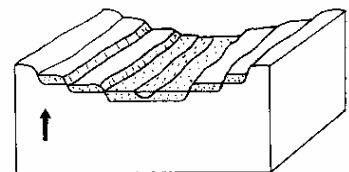
河岸段丘の作り方



川のしん食作用で、広い川原ができる。



土地がもち上がると、川底をけずるはたらきがさかんになって、川は一段低くなって流れる。



ふたたび土地がもち上がると、さらに一段低い川原ができる。

